

Shall we dance?

～テンアライド事業部長 高鳥雅樹さんが語る『成功の秘訣』とは～

B 班 大壁 中舘 碇

<動機>

私たちが目標とする人物像は金儲けなどの金銭的な事で成功している人よりも、『持つべきは友』ということわざがあるように、学生時代の同級生や仕事仲間との**交友関係が豊富である人**であると考えました。その結果、上記に述べたような交友的な方がいらっしやらないかと調べたところ大壁のバイト先である、株式会社テンアライド(天狗)という会社に、高鳥部長がいらっしやったので、インタビューをさせていただくことにしました。

<紹介>

株式会社テンアライド 事業部長

高鳥 雅樹さん

昭和42年生まれ

日本大学 生産工学部電気電子工学科を5年で卒業後

株式会社ソニーに入社 その後8年で現在のテンアライドに入社

<インタビュー内容>

たくさんお話を聞かせて頂いた中から代表として以下のことに着目しました。

・サークル・・・ソーシャルダンス (社交ダンス)

高鳥さんは大学時代、ソーシャルダンスのサークルに所属していました。サークルは週に4回程度で活動していて、当時、ダンスホールなどは金銭的な問題で借りることができなかったため、大学の教室で練習していました。他にも、サークル運営やイベントの運営などに力を入れていました。

最初は女子との接点を理由に軽い気持ちで入部したそうですが、実際のサークルは礼

儀、挨拶が厳しく体育会系で現代の私たちがイメージするサークルの雰囲気とは異なっており、浮かれてなどいられない状況だったそうです。しかし、続けているうちに社交ダンスの魅力に取り付かれ熱中していったとのことでした。

・アルバイト・・・すし屋

高鳥さんは大学1年のときから5年間すし屋でバイトをしていました。接客、調理を通じて『働くこと』の楽しさを知ると共に、さまざまな食材に触れる調理の現場で、調理器具の使い方や『お客様が好む味』など**飲食店で働くための多くの経験値**を得たようです。さらに、バイトで知り合った友人とは10年以上たった現在も付き合いがあり、一緒に草野球やキャンプに行くほど仲が良いとのことでした。

・20歳の頃の夢

オーディオに関する仕事をする事だったそうです。
そう思うようになったのは中学時代に父親にオーディオ機器を買ってもらい興味をもったことがきっかけになったそうです。

・現在の目標と夢

現在の目標は会社役員への昇格による給与UPであり、将来の夢はお客さまに楽しい時間を過ごして頂けるような居酒屋を経営することだそうです。
しかし周りに成功した例がないことが不安要素になっているため、テンアライドで働いて資本金を貯めつつ経営について日々勉強しているそうです。

<インタビューから学んだこと>

高鳥さんは、前向きで気さくな方で私たちの質問にも快く答えて下さりました。
インタビューをする前は、今の活躍があるのは20歳のころ勉強に力を入れていたからではないかと思っていましたが、インタビューを終えて勉強だけでなくバイトやサークルを通して**多くの人と関わり**社会での生き方を学び人間的に成長したことにあるということがわかりました。

高鳥さんは写真撮影を終えた後、私たちに「手の組み方はどっちの手を下にすると思う？」と質問され「右の手を下にすることで相手へ敵対意識を持っていないと伝えることができる」と教えて下さりました。高鳥さんのような信頼される人間になるには、こういった細かな配慮が自然にできるようにならないと感じました。

＜最後に＞

今回の『20歳のころ』という企画を通して普段はお話を聞く機会のない方のお話を聞くことができ、いま成長段階にある私たちにとって大変良い経験をすることができました。お話を聞いて、今の私たちは高鳥さんのように一生付き合っていける友達を作ること、また自分の強みとなるものを「20歳の今」に見つけることが大切だということが分かりました。

また、班の中では自分の役割を持って行動すること、協力して共に創りあげることの喜びを実感しました。

お忙しい中、私たちのインタビューを快く承諾して下さった高鳥さんやインタビューの場所を提供して下さったテング酒場水道橋西口店の皆様に心より感謝し、改めて御礼申し上げます。